

# 生産者通信

(有)エコ・ライス新潟  
定価 100円(送料込)

## コロナで中断していた5年振りの先進地研修 栃木県山田錦栽培研究所『大田原地区』を視察

山田錦コンテスト予選通過常連で、過去の千万獲得された栃木県山田錦栽培研究所さん



圃場では、山田錦団地の様相を呈しているまともな圃場を視察し、新潟での栽培と違う点等、質疑応答を交わしました。  
午前中は豪雨の悪条件の天気でしたが、約2時間にわたりお集まりいただき、山田錦栽培について、学ばせてもらいました。

5年振りの県外研修は、栃木県大田原市地区を視察しました。視察先の山田錦研究所は、第1回山田錦コンテスト初代優勝者でもあり、毎回、予審を何人もの生産者が通過し、伝説になりつつある生産者団体です。



2日目は、福島県喜多方市の(有)大和川ファームを視察。ここは大和川酒造が農業生産法人として始めました。ここでは、昨年建設した乾燥調整施設と併設している籾殻を半分に分り、嵩を減らし、保管するハウスを視察。  
次にその籾殻からシリカ分を分離精製する工場を見学。籾殻には14%前後のシリカ分が含まれており、植物由来のシリカを精製。SDGsが叫ばれる中、世界初の植物シリカ工場は、厄介な籾殻が環境に寄与され、生まれ変わることに驚きです。



ザルビオフィールドマネージャーを活用  
(AIを活用した栽培管理支援システム)

### 生育状況を予測し的確な管理を実践

令和5年度農林水産省「GFP輸出産地づくり支援事業」を活用して、BASFジャパン(株)と「輸出来の低コスト栽培実践」でコンサルタン卜契約をしています。  
山田錦協議会の先進地研修にも同行して頂き、指導を受けながら、ザルビオの使い方、疑問に答えてもらいました。  
左図は山田錦圃場の生育マップで、(※赤色部分は畔です)このような圃場毎の情報を協議会のLINE Eグループで共有しています。  
他にも田植時期には、余った苗、足りない苗の情報のやり取りを行い、組織での連携の強みを活かそうと取り組んでいます。  
まだ参加されていない方、これから参加希望の方は、ぜひご参加ください。  
担当 雄勝(オカツ)



SNSアプリのLINEでリアルタイムに情報交換20名参加中!!